



78200-XLR-K1S0 CIVIC TYPE-R ASSIST METERS

取 付 ・ 取 扱 説 明 書

この度は、無限製品をお買い上げ頂きありがとうございます。
安全にドライビングを楽しんでいただくために、以下の注意点を正しくご理解の上、
ご使用下さいますようお願い申し上げます。
取り付け後は、本書を必ずお客様にお渡し下さい。

ご 注 意

1. 開梱後は、ただちに梱包内容（構成部品表を参照）の不足や破損のないことを確認して下さい。
2. 取り付け前に取り付け車両の形式の確認を行ってください。
[適応車種] シビック タイプR ABA-FN2

3. アシストメーターキットの装着は、ホンダディーラーもしくは専門の整備工場等（認証工場）で行って下さい。

※本書の作業内容は、自動車整備士及び整備についてある程度の知識を持った方を対象としています。経験の無い方のみでの組付け作業は、ケガや事故または走行中の車両トラブル等をまねく恐れがあり、大変危険です。また、保障の対象外になりますので絶対に行わないで下さい。

4. 本製品は電子機器です。衝撃および湿気には十分注意し取扱い下さい。また、分解や改造は絶対に行わないで下さい。
5. ハーネスやコネクタに引張るなど無理な力が加わると故障や破損の原因になりますのでご注意下さい。コネクタを取外す際は必ずツメを持ってから引き抜いて下さい。
6. 純正パーツの取付け・取り外しはサービスマニュアルに従い作業を行って下さい。
7. 本製品の加工や分解、組付け不良、誤使用による不具合・事故等については、弊社は一切責任を負いませんのでご了承下さい。

ご不明な点がございましたら下記までご連絡下さい。

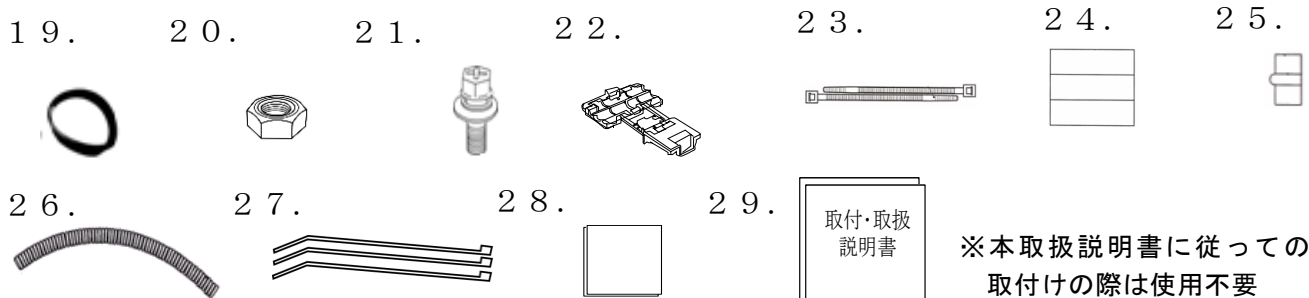
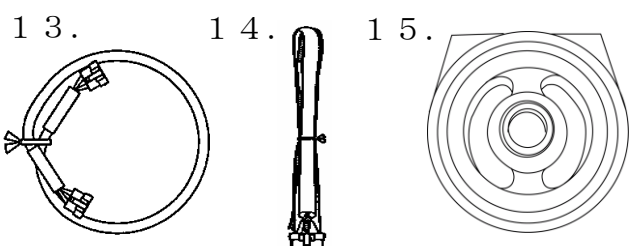
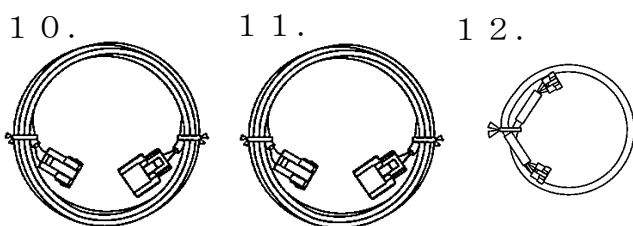
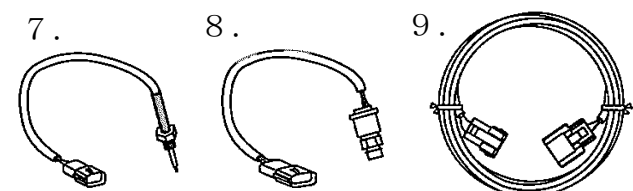
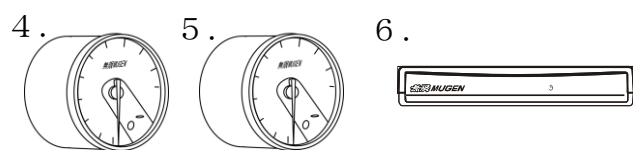
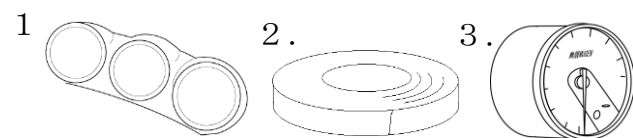
〒351-8586 埼玉県朝霞市膝折町2-15-11
株式会社 M-T-E-C 商品事業部 営業課1課
【営業時間 10:00~17:00 土日・祝日除く】

お 客 様 へ

1. 定期的にオイルや水漏れを点検し、取り付け状態を確認してください。損傷等の異常がある場合は速やかに補修を行ってください。
2. 走行中は安全の為、長時間凝視しないで下さい。前方不注意等による事故の原因となり大変危険です。
3. 天候その他の条件によっては、アシストメータのガラス面が反射して見にくい場合があります。
4. アシストメータを取り付けることにより、前方の視認に影響を与える場合があります。運転には十分注意してください。
5. スイッチユニットの操作は必ず安全な場所で停車した状態で行って下さい。走行中の操作は前方不注意等による事故の原因となり大変危険です。

【構成部品表】

No.	PARTS NAME.	QTY.
1.	メータフード	1
2.	両面テープⅠ	1
3.	ウォーターテンプメータ	1
4.	オイルテンプメータ	1
5.	オイルプレッシャーメータ	1
6.	コントロールユニット	1
7.	温度センサ(水温、油温用)	2
8.	圧力センサ(油圧用)	1
9.	水温センサハーネス (2極桃)	1
10.	油温センサハーネス (2極茶)	1
11.	油圧センサハーネス (3極黒)	1
12.	メータハーネス (4極白 0.25m)	2
13.	メータハーネス (4極白 2.0m)	1
14.	電源ハーネス	1
15.	オイルセンサアタッチメント	1
16.	水温センサアタッチメント	1
17.	ホースクランプ	2
18.	スイッチユニット	1
19.	リングラバー	3
20.	コントロールユニット取付けナット※	4
21.	コントロールユニット取付けボルト※	4
22.	エレクトロタップ	4
23.	タイラップ (白)	2
24.	両面テープⅡ	1
25.	ハーネスクリップ※	1
26.	コルゲートチューブ	1
27.	タイラップ (黒150mm)	15
28.	スポンジテープ (60×60)	3
29.	取付・取扱説明書	1



※本取扱説明書に従っての
取付けの際は使用不要

【取付け時に用意していただくもの】

- ・シールテープ
- ・ビニールテープ
- ・エンジンオイル
- ・ロングライフクーラント
- ・コーキング剤
- ・アルミテープ
- ・クッションテープ
- ・イソプロピルアルコール

【必要工具】

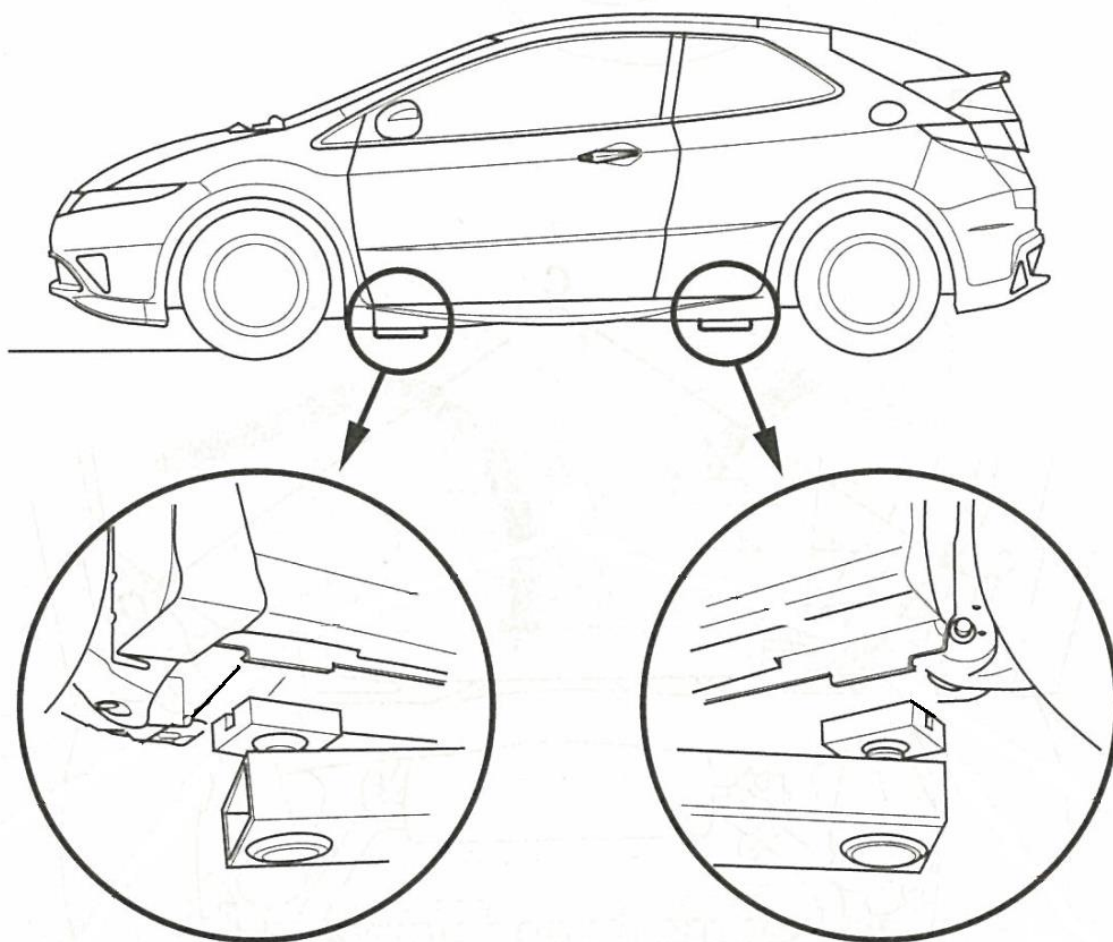
- ・ボックスレンチ
- ・オイルフィルタレンチ
- ・ドライバー (プラス・マイナス)
- ・カッターナイフ
- ・ドリル φ 3・φ 6・φ 8・φ 12・φ 15
- ・ニッパー
- ・プライヤー

I. 取付準備

《注意》・車体に傷を付けないように注意して作業を行うこと。

①リフトアップまたはジャッキアップし、サイドシル補強部にリジットラックをあてがう。

②リフトアップまたはジャッキアップ状態の安全を確認する。



注意

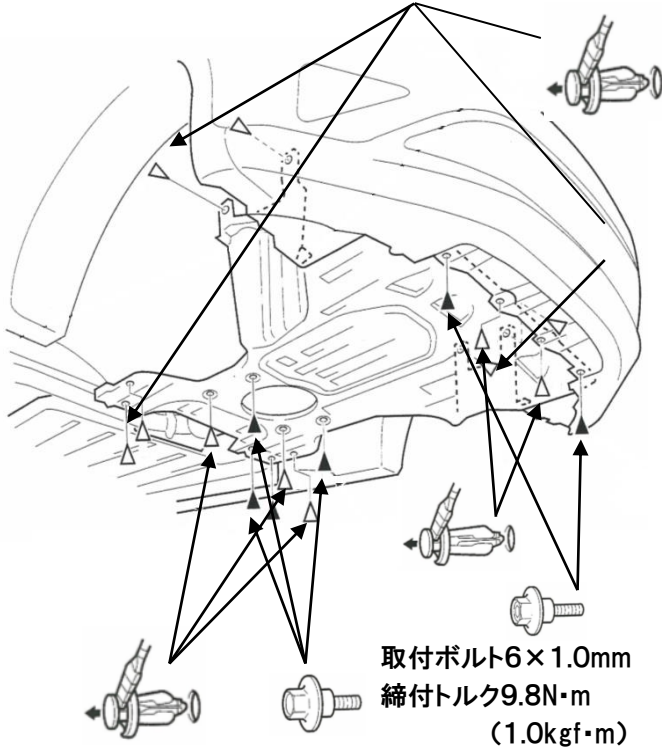
- ・ 指定した位置以外でリフトアップしないこと。
- ・ ボディに傷をつけないように注意すること。
- ・ リフト使用時は、必ずリフトの取扱説明書を参照し、安全に注意し作業を行うこと。
- ・ ジャッキアップ時は、必ずリジットラックを使用すること。
- ・ 短時間の作業でもジャッキのみでの作業は絶対にしないこと。
- ・ ジャッキアップしたままで、車両の下には入らないこと。
- ・ フロントをジャッキアップする時は、パーキングブレーキを必ずかけること。

Ⅱ. 水温センサの取り付け

※純正パーツの取外しはサービスマニュアルを参照すること。

※エンジン停止直後は各部が高温になっている為、作業は行わないで下さい。火傷を負う恐れがあり大変危険です。

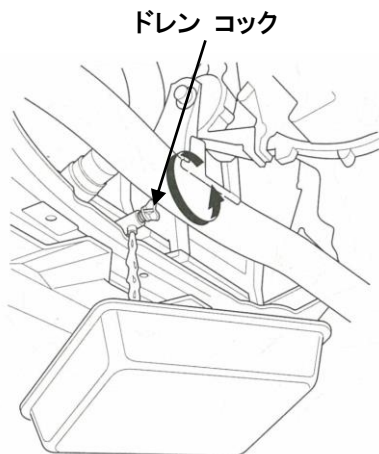
- ①取り付けボルト、クリップを外し、エンジン アンダー ガードを取外す。



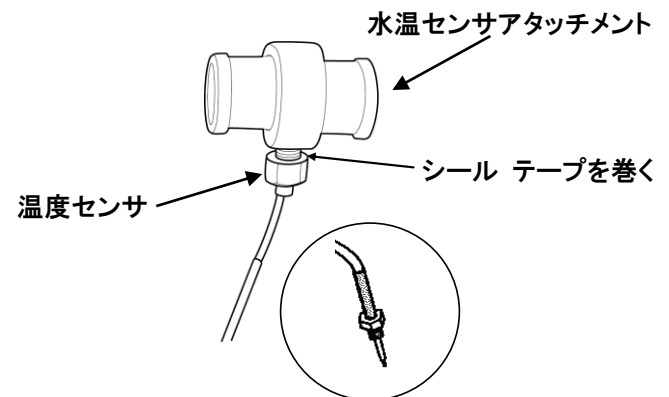
- ②エンジンが冷えているのを確認し、ラジエータ キャップを取外す。

※水温が高い時にキャップを外すと、冷却水に圧力が掛かっているので、冷却水が吹き出し危険です。水温が下がってから静かに開けること。
※火傷に注意すること。

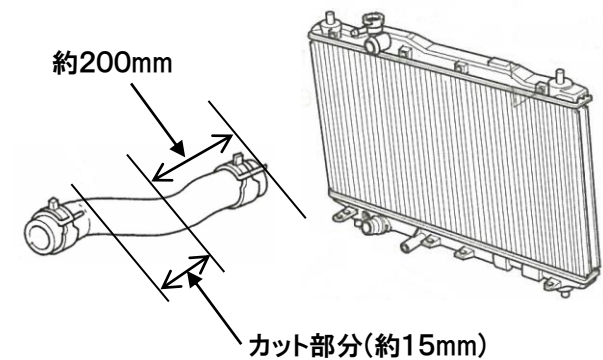
- ③ドレン コックを弛め、冷却水を抜き取る。
※冷却水を再利用する時は、清潔な容器に回収すること。



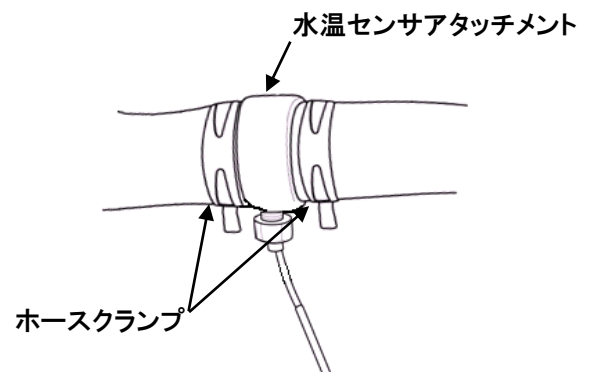
- ④温度センサのネジ部にシールテープを2巻き程度巻き付け、センサアタッチメントに取付ける。
※温度センサと圧力センサを間違えて取付けないこと。



- ⑤ラジエータのアップ ホースのカット (約15mm)。



- ⑥付属のホースクランプ 2個をカットしたアップ ホースの両側に通し、水温センサアタッチメントを下図のように取り付ける。
※エア溜まりを防ぐ為、温度センサを水平から下方向に向けて取付けること。
※温度センサがエア インテーク チューブと干渉しないように注意すること。



- ⑦冷却水のドレン コックを締め付ける。

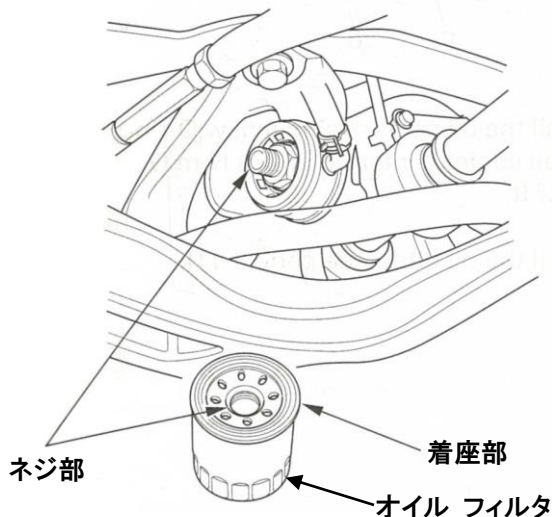
- ⑧ラジエータ キャップを取付ける。

Ⅲ. 油温・油圧センサの取り付け

- ①オイル フィルタ レンチでオイル フィルタを取り外す。

※オイル フィルタの着座部、ネジ部およびパッキンの打痕、損傷を点検する。

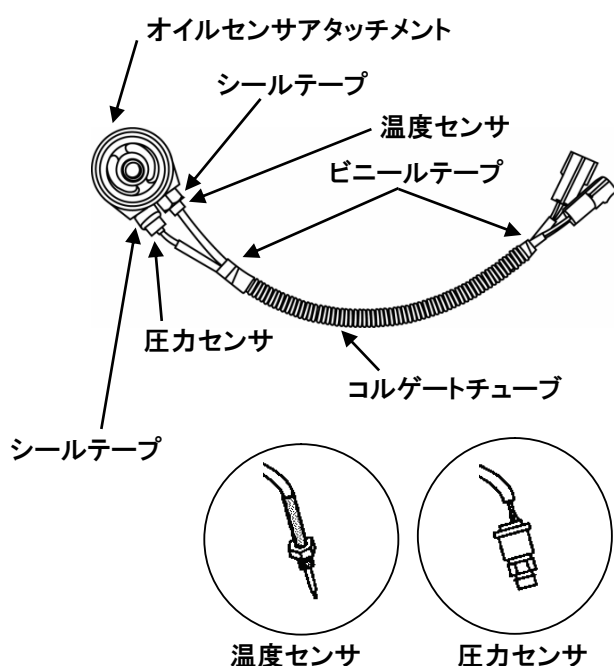
※オイル フィルタ内のオイルが出てくるので、注意すること。



- ②温度センサと圧力センサのネジ部にシールテープを2巻き程度巻き付け、オイルセンサアタッチメントに取付ける。

※センサの先端がオイルセンサアタッチメントに接触しないようにすること。

- ③コルゲートチューブを200 mm程度切り、センサのハーネスに被せ、両端をビニールテープで固定する。



- ④⑤の図に従ってオイルセンサアタッチメントを取り付け、規定トルクで締め付ける。

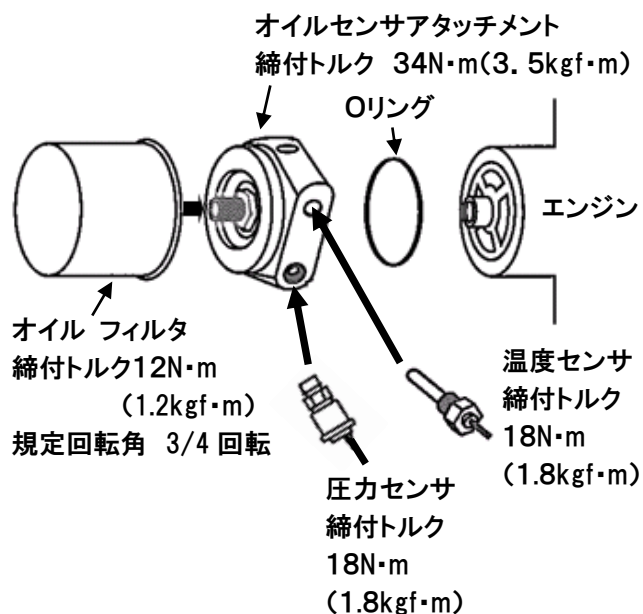
※Oリングにオイルを塗布すること。

※エア溜まりを防ぐ為、センサ取付部を水平から下方向に向けて取付けること。

※センサ取り付け時、ハーネスのねじれに注意すること。

- ⑤オイル フィルタを取り付け、規定回転角または規定トルクで締め付ける。

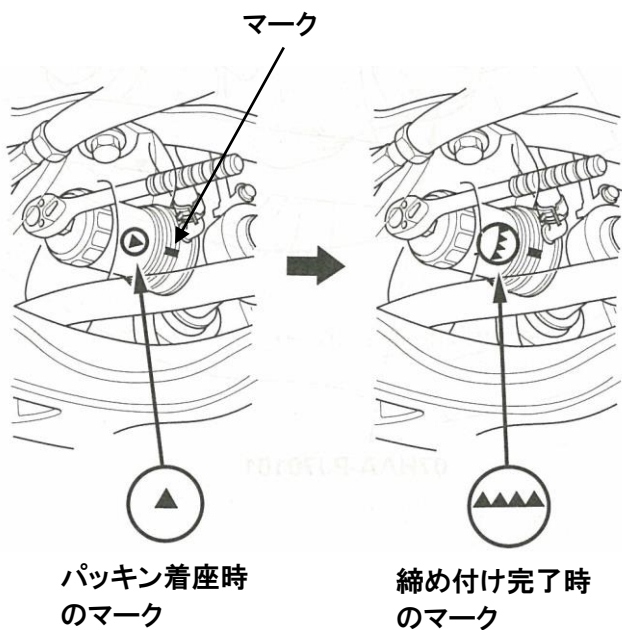
※オイル フィルタを規定回転角で締め付ける場合は、次ページの「規定回転角での締め付け方法例」を参照のこと。



- ⑥エンジン アンダー ガードを取外しと逆の手順で取付ける。

《規定回転角での締め付け方法例》

- ①オイル フィルタのパッキンが着座したらオイル
フィルタの数字またはマークに合わせてオイル
クーラにマークをする。



- ②オイル フィルタの周囲には、図のように円周を
4等分した1から4の数字または、
▲、▲▲、▲▲▲、▲▲▲▲、のマークが印刷さ
れている為、下表を参考にパッキンが着座した時
にマークした位置より3つ分右に回転し締め付
ける。

パッキン 着座時 の マーク	1 または ▼	2 または ▼▼	3 または ▼▼▼	4 または ▼▼▼▼
3/4回転 締め付け 完了時の マーク	4 または ▼▼▼▼	1 または ▼	2 または ▼▼	3 または ▼▼▼

Ⅳ. ハーネスの引き込み(推奨位置)

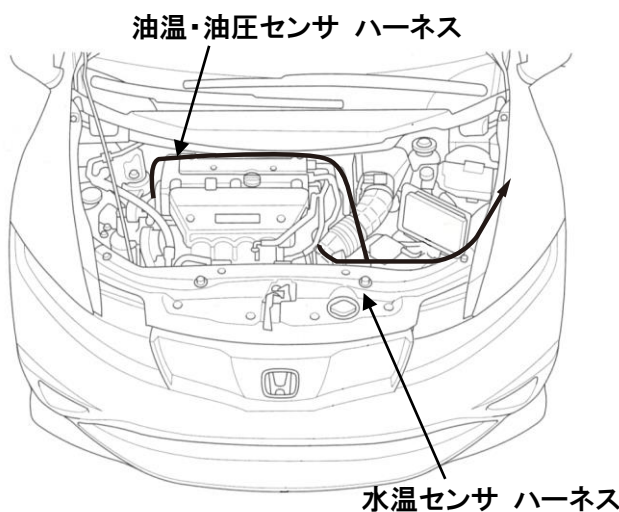
①バッテリーのマイナス端子の接続を外す。

※メモリ機能の記憶が消去される場合がある為、
その際はサービスマニュアルを参照の上再設定を行うこと。

②温度(水温、油温)センサ、圧力(油圧)センサのカ
プラをそれぞれのハーネスに接続する。

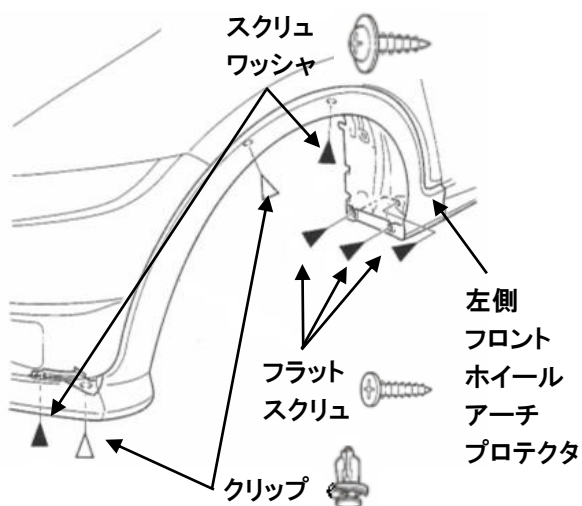
③水温センサ ハーネスと油温・油圧センサ ハー
ネスを左ライト後方のバッテリー横からフェンダー
内に引き込む。

※コントロールユニットを推奨位置以外への設
置の場合、場所によっては左ライト後方からハ
ーネスを引き込むとハーネスの長さが足らな
くなる為注意すること。

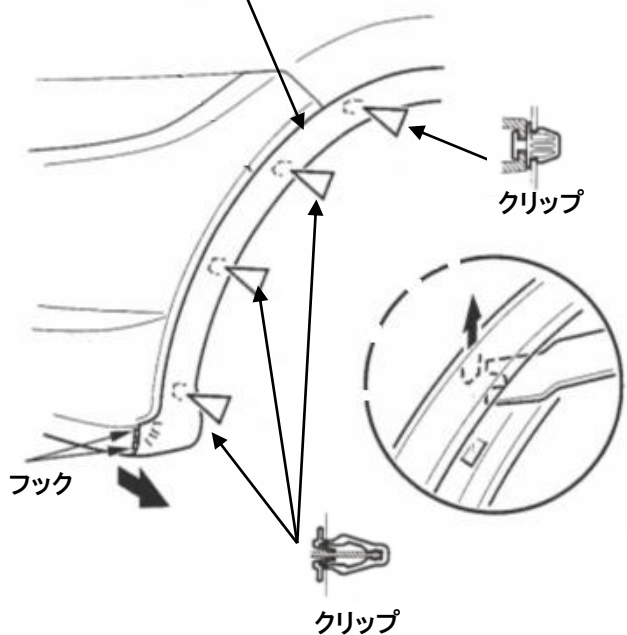


④エンジン ルーム内のセンサ ハーネスにコルゲ
ート チューブを巻き、両端部および150～2
00 mm 間隔でビニールテープを巻きつけ、セン
サハーネスが動かないように車両のハーネス等
にタイラップで固定すること。

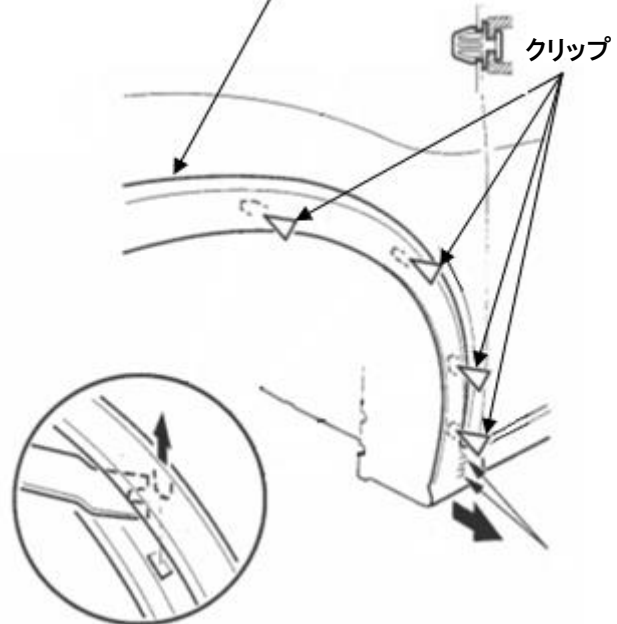
⑤左側フロント ホイール アーチ プロテクタを取
外す。



左側フロント ホイール アーチ プロテクタ

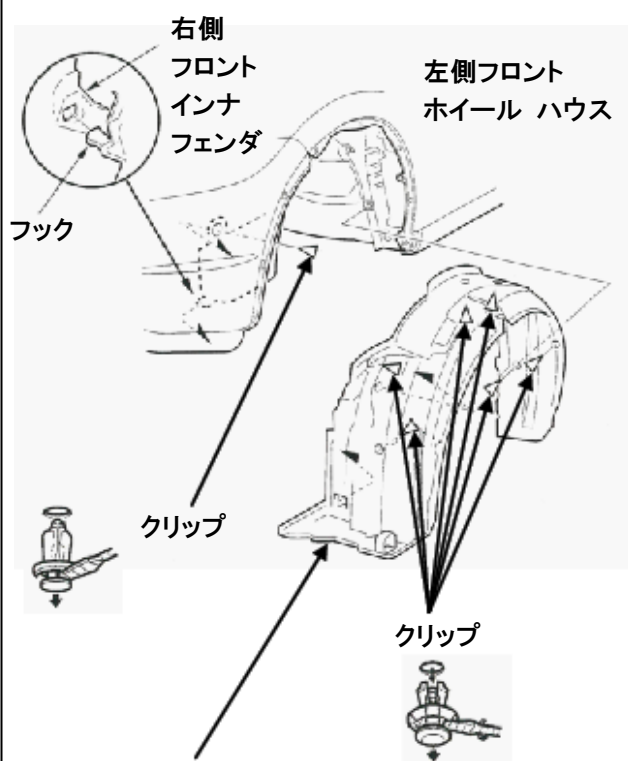


左側フロント ホイール アーチ プロテクタ



⑥左側フロント インナ フェンダを取外す。

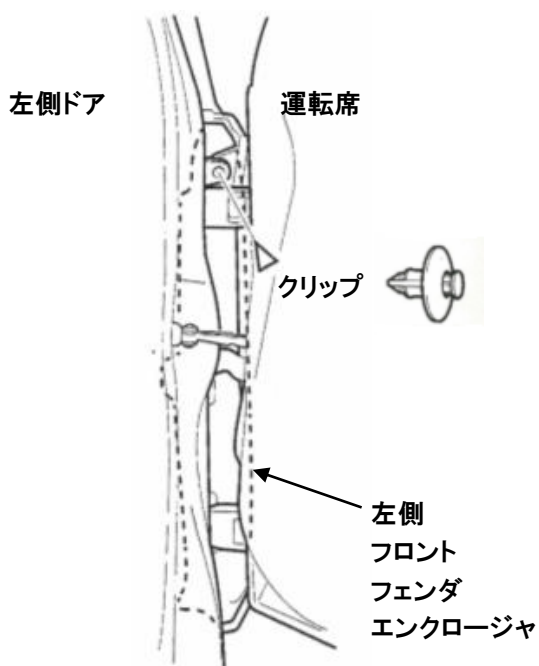
※左側フロント ホイール アーチ プロテクタを取外した後、左側フロント インナ フェンダを取外すこと。



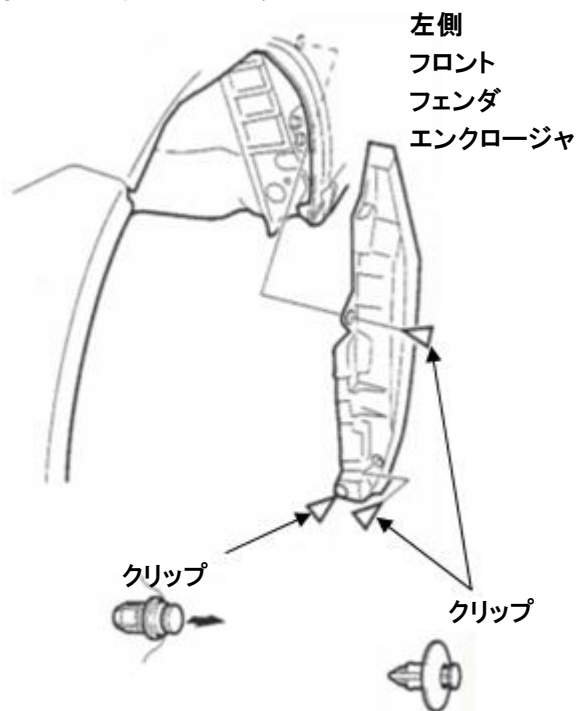
左側フロント インナ フェンダ

⑦左側フロント フェンダ エンクロージャを取外す。

※左側フロント インナ フェンダを取外した後、左側フロント フェンダ エンクロージャを取外すこと。



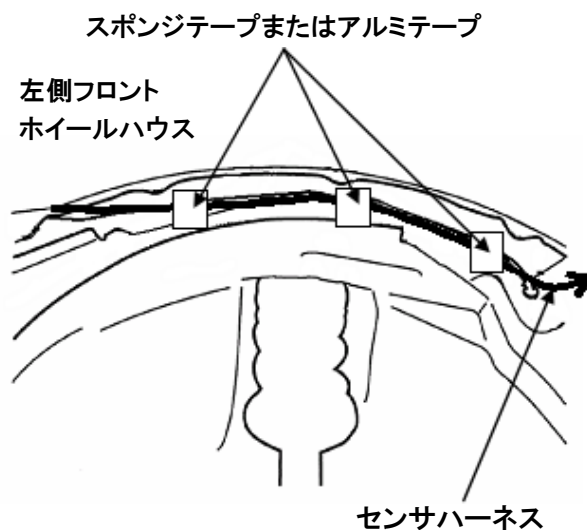
左側フロント ホイール ハウス



⑧サイド フレームにセンサ ハーネスを沿わせ、スポンジテープ又はアルミテープ等で固定する。

※スポンジテープ又はアルミテープ等にてクリップ穴を塞がないように注意すること。

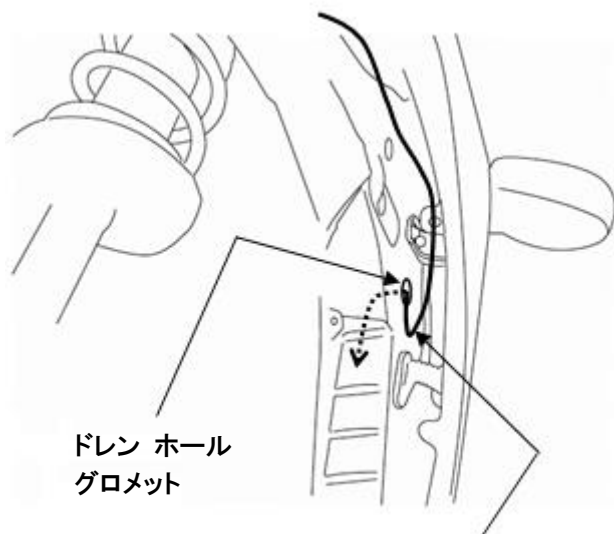
※貼り付け面は、イソプロピルアルコール等にて油分・汚れ等をきれいに拭き取っておくこと。



- ⑨ドレン ホール グロメットに切り込みを入れ、センサ ハーネスを車内に引き込む。

※他のハーネスへの損傷と引き込み時のセンサ ハーネスのカブラ破損に十分注意すること。

センサ ハーネス



車内に入る手前でセンサ ハーネスを一度下方向に弛ませること

- ⑩ドレン ホール グロメットの切り込み部分に雨水等が入らないようにコーキング剤で防水処理をすること。

- ⑪フロント ドアオープニング シールをめくり、助手席側カウル サイド ライニングを取外す。

- ⑫車内に引き込んだセンサ ハーネスを他の部品や配線に干渉しないように助手席側の足元まで引き込む。

- ⑬取外していた左側フロント フェンダ エンクロージャ、左側フロント インナ フェンダ、左側フロント ホイール アーチ プロテクタを取付ける。

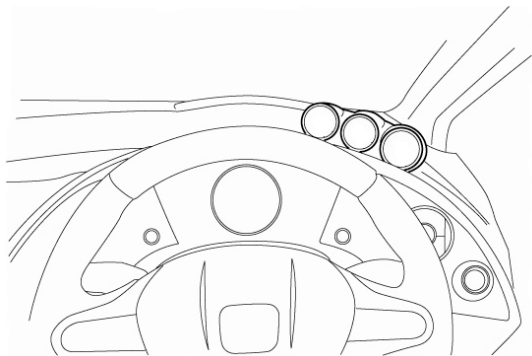
※左側フロント フェンダ エンクロージャ、左側フロント インナ フェンダ、左側フロントホイール アーチ プロテクタの順に取付けること。

V. 車内への設置（コントロールユニットは推奨位置）

※コントロールユニットを推奨位置以外に設置の場合は⑭、⑮および⑯の作業は行わない為注意すること。

※推奨位置以外に取付ける場合はハーネスを含め運転操作や可動物の妨げにならない場所に取付けること。

①運転席側ダッシュボードにメータフードを仮置きし、マーキングする。



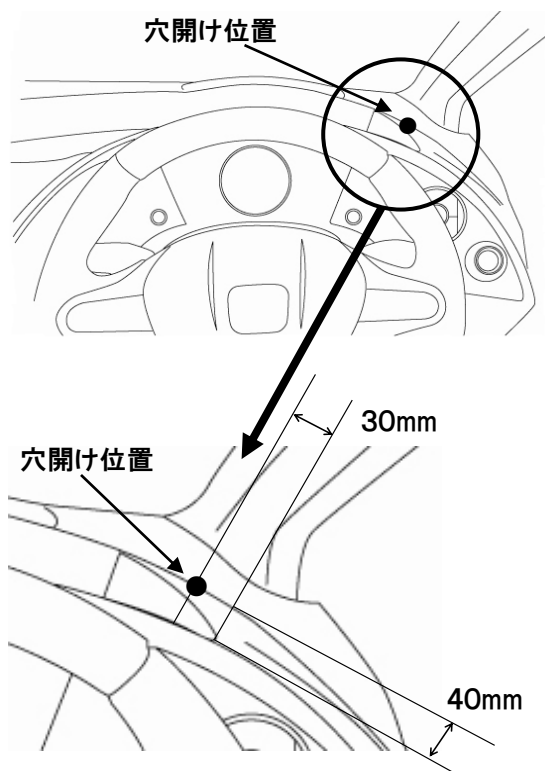
②ダッシュボードのメータフードで隠れる位置にメータハーネスを通す穴の位置決めを行い、φ12の穴を開ける。

※裏側に物が無いことを確認すること。

※3mmのドリルにて下穴をあけた後、少しずつ穴径を大きくすること。

※バリの処理をすること。

※ダッシュボードに穴開け加工をしない場合はメータフードにメータハーネスを通す切り欠きを開け、運転の妨げにならないようにメータハーネスを取回すこと。

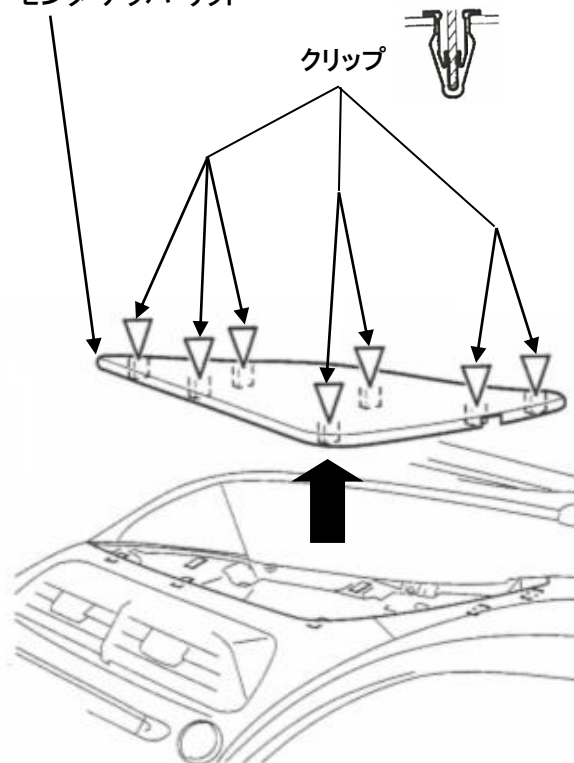


③メータハーネス（2.0m）を②で開けた穴に上から通し、ダッシュボード裏から助手席の足元まで引き込む。

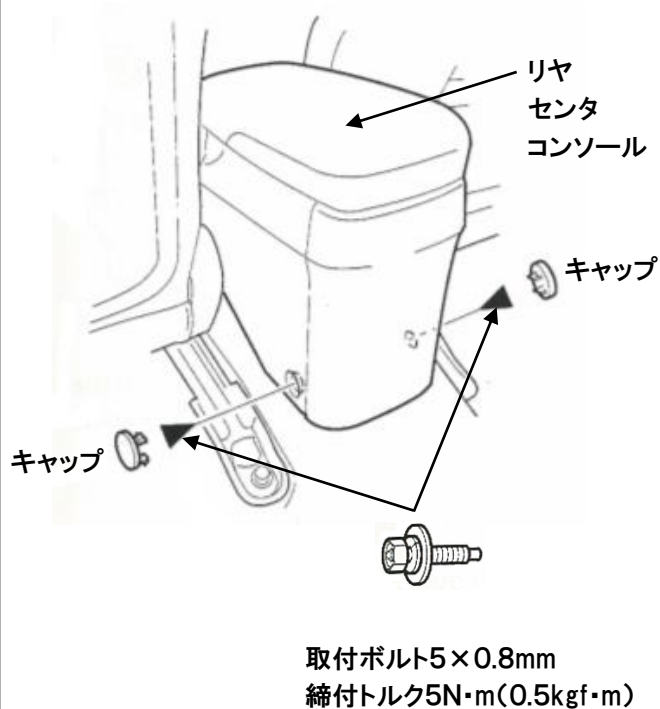
※メータハーネスは200mm程度上に出し、テープ等で仮固定しておく。

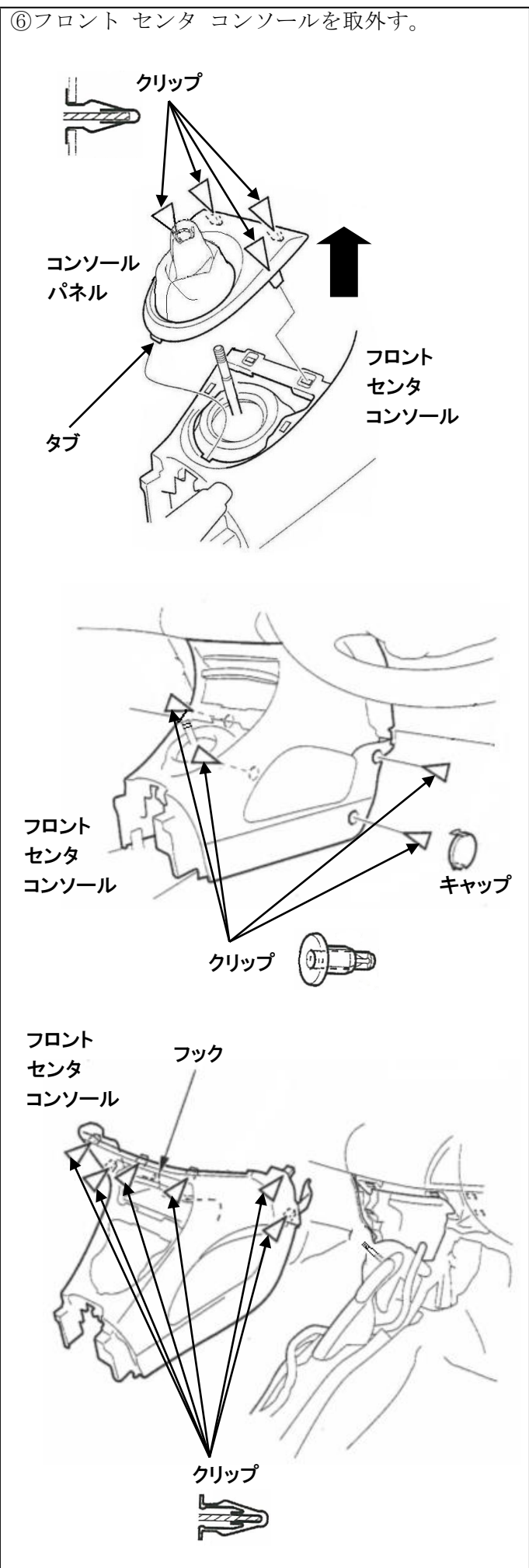
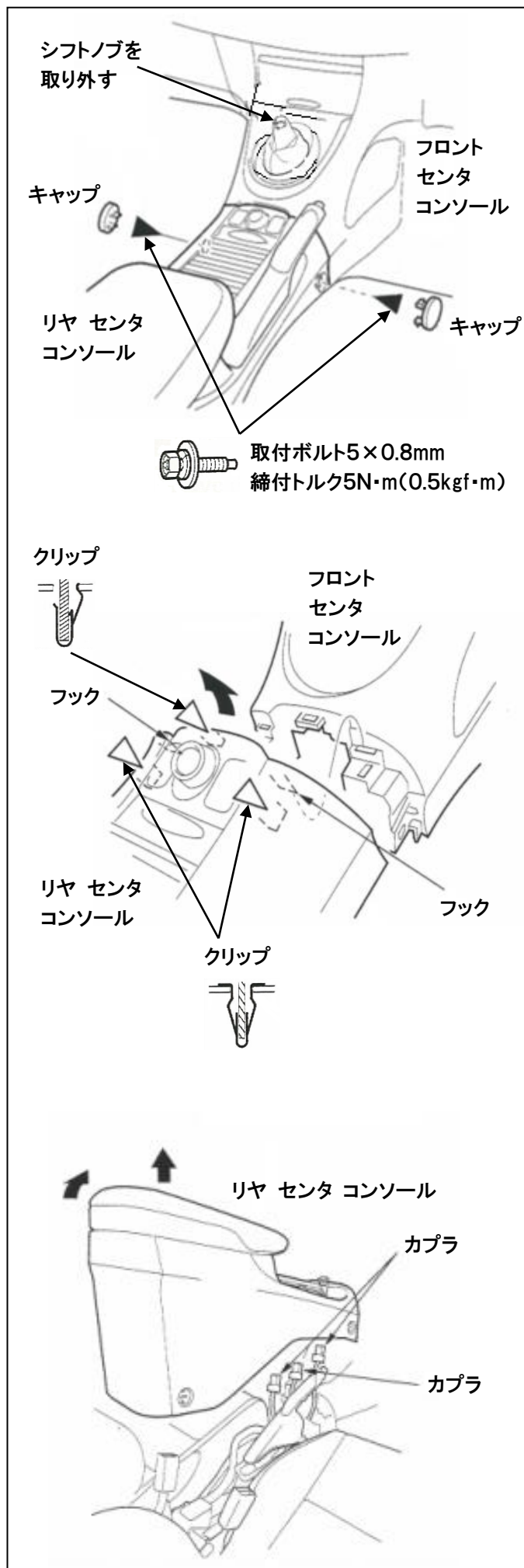
④ダッシュボードセンタアッパーリッドを取外す。

ダッシュボード
センタアッパーリッド



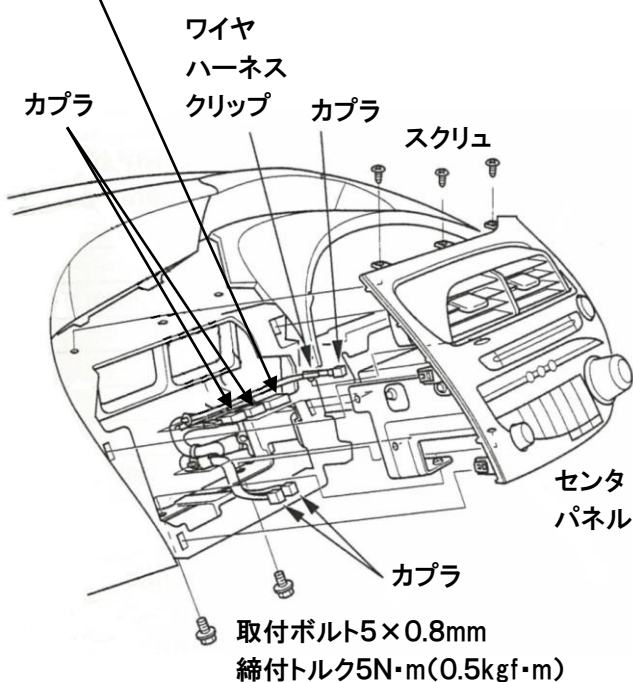
⑤リヤセンタコンソールを取外す。





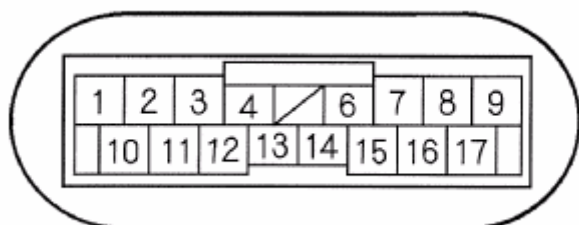
- ⑦ センタ パネルを引き出し、各カプラの接続を外し、オーディオ ユニートを取外す。

カプラ(17P)



- ⑧ 電源ハーネスをオーディオ ユニートのカプラ(17P)と接続する。
 ※ハンダ付けの際は火傷に注意すること。
 ※エレクトロタップを使用する場合は、確実に接続し、スペースに注意すること。

ハーネス裏側から見た図



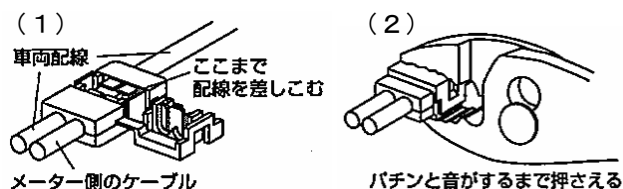
車両ハーネスカプラ

9	黒	・・・ GND 線 (黒線と接続)
10	灰	・・・ イルミ 線 (白線と接続)
14	紫	・・・ ACC 電源 線 (橙線と接続)
17	白	・・・ 常時電源 線 (赤線と接続)

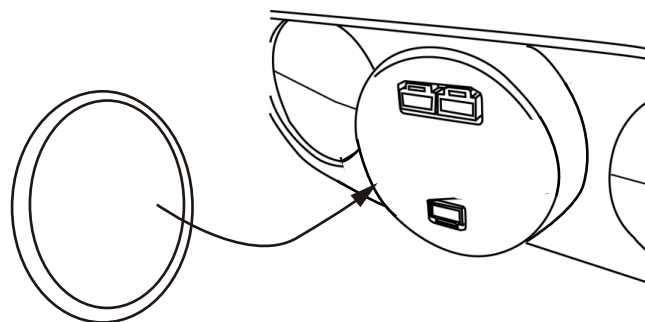
※ハンダ付けのやり方

- (1) 配線の被覆を剥く (2) 剥いた配線を巻き付ける
 (3) ハンダを盛る (ハンダがよく浸透したのを確認する) (4) 絶縁テープをしっかりと巻く

※エレクトロタップの使い方

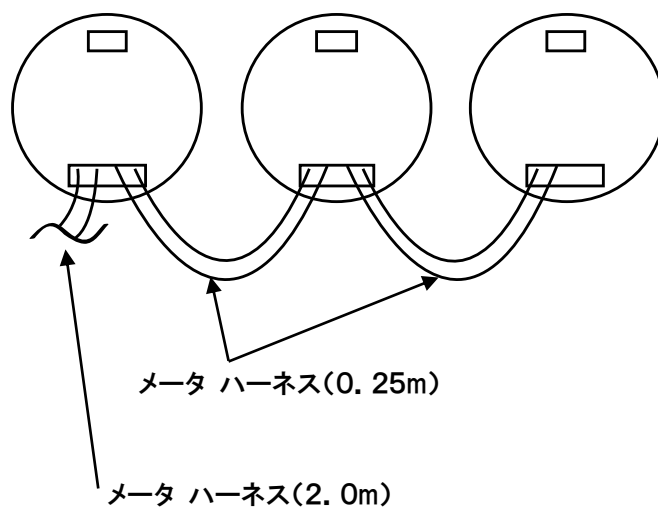


- ⑨ 接続した電源ハーネスをオーディオ ユニート裏から助手席の足元まで引き込む。
 ⑩ 取外していたオーディオ ユニート、フロント センタ コンソール、コンソール パネル、リヤ センタ コンソール、シフトノブ、ダッシュ ボード センタ アップ リッドを取付ける。
 ※各カプラの接続を忘れないこと。
 ⑪ メータフードにメータを挿入し、裏側から付属のリングラバーを入れてメータフードとメータを固定する。
 ※リングラバーのゴム端厚さが厚い方がメータフードと接触するよう取付けること。



- ⑫ ③にて出しておいたメータ ハーネス (2.0m) を、メータに接続し、メータ ハーネス (0.25m) にて残りのメータ間を接続する。

メータ裏側

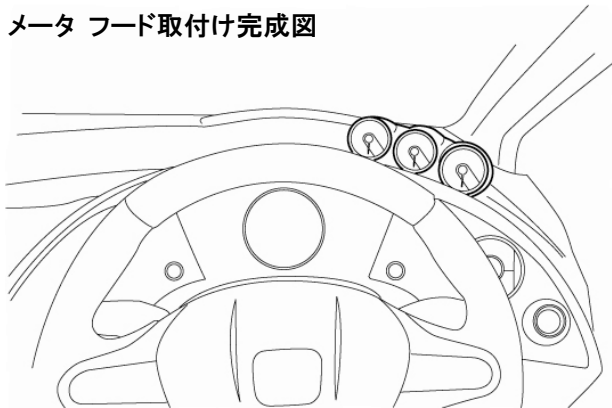


- ⑬両面テープⅠでメータ フードを運転席側ダッシュボードに、①にてマーキングした位置に固定する。

※両面テープの貼付け面は、イソプロピルアルコール等にて油分・汚れ等をきれいに拭き取っておくこと。

※気温が10℃以下の場合は両面テープを暖めてから使用すること。

メータ フード取付け完成図



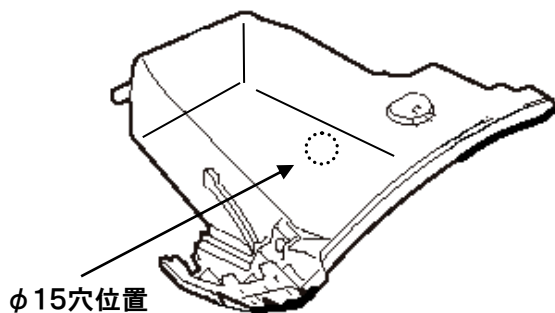
- ⑭アシスタントアンダカバーを取外す。

- ⑮グローブボックスを開けラバートレイを取外し、下図の位置にφ15穴をあける。

※下図はグローブボックスを取外し上から見た図であるが、下図の位置に下側からボックス内へ向け穴をあけること。

※3mmのドリルにて下穴をあけた後、少しづつ穴径を大きくすること。

※バリの処理をすること。



- ⑯助手席の足元に引き込んだセンサ ハーネス、メータ ハーネス (2.0m) および電源ハーネスと付属のスイッチユニットハーネスを⑮で開けた穴よりグローブボックス内に引き込みコントロールユニットに接続する。

※ハーネスはノイズなどの障害を発生させないように取り回すこと。

※ハーネスがブレーキペダル、アクセルペダルに接触しないように取り回すこと。

※余ったハーネスを束ね、タイラップで固定すること。

※コントロールユニットのカプラ指示に従い、接続すること。

コントロールユニット

□ — スイッチユニットハーネス

□ — 水温センサ ハーネス

□ — 油温センサ ハーネス

□ — 油圧センサ ハーネス

□ — 電源ハーネス

□ — メータ ハーネス

- ⑰取外していた助手席側カウル サイド ライニングとアシスタントアンダカバーを取付ける。

※ハーネスが動かぬよう車両のハーネス等にタイラップで固定してから取付けること。

- ⑱グローブボックス内にコントロールユニットを両面テープⅡにてしっかりと圧着させる。

※両面テープの貼り付け面は、イソプロピルアルコール等にて油分・汚れ等をきれいに拭き取っておくこと。

※気温が10℃以下の場合は両面テープを暖めてから使用すること。

※製品番号ラベルの位置には両面テープを貼らないこと。

- ⑲スイッチユニットを任意の位置に両面テープを用いて貼り付ける。

※ハーネスを含め運転操作や可動物の妨げにならない場所に取付けること。

※製品番号ラベルの位置には両面テープを貼らないこと。

- ⑳ジャッキアップを降ろす。

- ㉑バッテリーのマイナス端子を接続する。

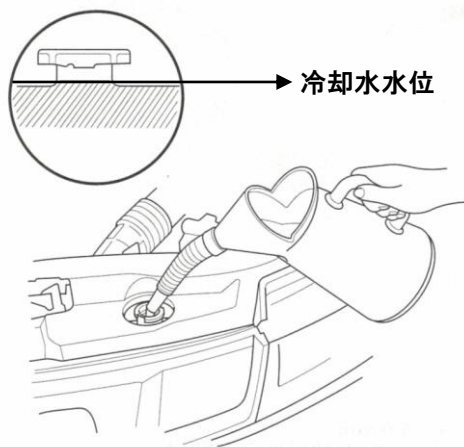
- ㉒エンジンオイルの量を点検し、必要ならば補充した後、冷却水を入れエア抜きを行い、エンジンオイル・冷却水の漏れがないか点検する。

※冷却水のエア抜き方法は次ページを参照すること。

【エア抜き方法】

- ①ドレン コックが閉まっているか確認する。
- ②ラジエータ キャップを外し、冷却水をラジエータ アップパタンクまで補充する。

ラジエータ アップパタンク上部



- ③ラジエータ キャップを仮締めし、エンジンを規定のアイドリング回転数より若干高目（約1,500rpm）にし、ラジエータ ファンが2回作動するまで暖機する。
 - ④エンジンを停止し、再度アップパタンク上部まで冷却水を補充し、同時にリザーバタンクの上限（MAX）まで補充する。
 - ⑤再度エンジンを始動し、約1,500rpmで液面が下がらないことを確認し、ラジエータ キャップを取り付ける。
- ※液面が下がる場合、更に冷却水を補充すること。

